



つばめきた

2025年度 No. 1

2025年 4月10日発行

燕市立燕北小学校

学校ホームページ 2次元コード ↑



子どもたちの幸福のために

校長 小川 泰文

春休みを終え、子どもたちの元気な声が校舎に戻ってきました。

新入生・転入生を迎え、全校115名、教職員18名で令和7年度がスタートしました。お子さんの入学・進級おめでとうございます。初日は、子どもたち、教職員がさわやかなあいさつを交わし、希望にあふれるスタートとなりました。

保護者・地域の方々、教職員、そして子どもたち、様々な出会いの4月です。縁をいただいたことに感謝し、人と人とのつながりを大切にして歩んでいきたいと考えます。これまで同様に、皆様と協力しながら教育の充実に努めていく所存です。

さて、お気付きのことと思いますが、今年度から紙面のタイトルを「北小だより」から「つばめきた」に変更しました。「つばめきた」は「燕北」と「つばめ来た」の2つの意味があります。

つばめは古くから縁起の良い幸せを運んでくる鳥といわれてきました。春から夏にかけて東南アジアから渡ってくる夏鳥で、日本で巣を作り、子育てをします。つばめは巣作りに際して、人の出入りがあり、さわやかな環境で、巣を壊さない優しい人がいる場所を選ぶとされています。

地方によって様々な言い伝えがあり、「つばめが巣をかける家は病人が出ない」「つばめが巣をかける家は火事にならない」など、いずれもその家に住む人の幸福につながっているようです。「この校舎に集う人々が幸福であるように」という願いをタイトルに込めました。

また、令和5年度のコミュニティー・スクールの準備委員会においても、同様の話題があったことを聞き、その想いも受け継いでいきたいと考えました。

「ツバメ」という歌にかかわる話です。「YOASOBI とつくる未来のうた」企画のグランプリ作品「小さなツバメの大きな夢」で、15歳の作者が綴った次の部分が心に残りました。

あの『幸福な王子』みたいに、自分の全てを犠牲にしなくていいから、誰かにほんの少し、手を差し伸べるだけでいい。

それを、この世界の全員が——人間も、動物も、大人も、子どもも、みんながやったとしたら、この世界は、今よりももっと優しく、綺麗で、明るくて、幸せになる気がするんだ。

——なんて、小さなツバメの大きすぎる夢かもしれないけれど。

僕が、何て言いたいのかって言うとね、

誰でも、誰かの「幸福な王子」になれるってことだよ。

つばめが巣立って力強く大空を飛ぶ姿を思いつつ、子どもたちの幸福のために、ともに悩み、知恵を出し、手を携えていきましょう。

1年間、よろしくお願いいたします。